

# 9・29反中共デー宣言

日出する處の天子　書を日没する處の天子に致す　つつがなきや  
この雄大かつ天晴なる言葉は、

推古天皇

が隋の煬帝に贈りたまえる国書の一節である。聖徳太子の作とも伝えられているこの国書には、大帝国・隋に対する我が国の独立自尊の志が燃え上がっている。中華思想に凝り固まつた支那は、自らを中国と称し、己のみが文明国であり、他の國々を野蛮なる後進国と侮り、朝貢と冊封の世界秩序を構築して来た。東夷・西戎・南蛮・北狄の言葉が示す通りだ。このような時代の中で、東夷と侮っていた我が国は、堂々と支那に対等なる外交を宣言したのだ。その結果、幾度かの不幸な一時はあつたにせよ、我が国と支那は友好的な関係を保ち得て来た。

しかし、現在の我が国と中共の関係はどうか。昭和四十七年九月二十九日、「日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明」が、田中角栄内閣により北京において発表された。また、昭和五十三年八月十二日には「日本国と中華人民共和国との平和友好条約」が、福田赳氏内閣により北京において署名された。今日までの年月を振り返り、我が国と中共との関係が正常であつたと言えるだろうか。友好的な関係だったとは、決して言えまい。平成四年十月二十三日、日中國交正常化二十年の記念として

天皇陛下

が中共へ行幸遊ばされた。我々は民間在野の有志として、この宮沢喜一内閣による悪謀を阻止する為、闘つた。だが、我々の力が及ばず、中共行幸は断行されてしまった。誠に痛恨の極みである。日中友好の総仕上げと喧伝された中共行幸だったが、その後の日中関係はどうだ。靖国神社、歴史教科書、尖閣諸島、北朝鮮亡命者を巡る我が国総領事館への侵入など、中共による主権侵害や内政干渉が繰り返えされている。さらに中共は、我が国からODAや円借款など多くの経済援助を受けながら、軍備を増強している。軍事覇権国家・中共は、我が国の独立と安全にとって、重大な脅威である。その中共に対して、売国的政策を繰り返す我が国政府および外務省は、まさしく亡国の徒である。

支那革命を支援した頭山満先生の道統を受け継ぐ我々は、支那に対して憎悪も敵愾心もなく、眞の友好を望む者である。だが、共産主義国家である中共との友好は断じて拒否する。何故ならば、共産主義国家との平和や友好は夢幻であり、断じて存在しないからだ。眞の日中友好とは、中国共産党による恐怖政治から支那人民が解放され、新しい国家が誕生した後にのみ可能なのだ。九月二十九日は日中國交正常化を祝う日ではない。中共との国交断絶を願い、闘いを誓う日だ。平成十四年九月二十九日、我々は大亞細亞主義の理念の下、「反・中国共産党」「反・中華人民共和国」を旗印に、中共との国交断絶を勝ち取る為、多くの同志とともに第一回「反中共デー」闘争を実行した。

我々は正義の名において、勝利を目指して起ち上がり、力の限り闘う事を宣言する。

平成十五年九月二十九日

9・29反中共デー

※この宣言は平成十五年の「反中共デー」において採択された反中共デーの趣意です